

同性愛者への態度変化について

～同性愛メディアとメディアの関わり～

丸田江里菜（文教大学情報学部メディア表現学科）

1. 調査研究の背景と目的

「同性愛」、その言葉をここ数年よくテレビやインターネットで目にするようになった。同性愛者など性的少数者全体を総称して「LGBT」と呼ぶが、この言葉も説明せずに理解される言葉となったように感じる。

近年の日本でこの同性愛に関する一番のニュースと言えば渋谷区の「同性パートナーシップ条例」だろう。これは平成 27 年 11 月 5 日から交付が開始されたもので、同性愛者の同士が男女間の結婚と同じようにパートナーであると証明するものである。この渋谷区を先頭として多くの自治体が同じような証明を発行する例が続いた。日本でも同性愛に対して行政が動き始めた例である。しかし、その一方でこの証明は区が認めた証明であり、対応に関しては強制ではなく、一般企業や行政機関に対して婚姻と同等の対応を求めるといった任意的な証明書であるため、男女間の婚姻関係とは違い、特に何の効力も発揮しない。そのため、男女の婚姻とはかなりの格差である。

また、同性愛にはいくつかの種類があり、その種類によって正式には名前がそれぞれ異なるが、そのことを知っている人は意外と少ない。大学生を対象とした調査を行っている Students lab 編集部が 2015 年に 294 人を対象に行った調査では、同性愛者である「ゲイ」や「レズビアン」という言葉を含む「LGBT」という言葉をきいたことがあるか、また何の略称かを知っているかという質問をしている。この質問で、言葉を聞いたことがあると回答したのは全体の 29.6%であったが、すべての言葉の意味を知っている人は全体の 22.9%であった。つまり大学生の認識において「LGBT」という言葉は聞いたことがあるが、きちんと意味を理解している人は少ないということである。また、同性愛者のカップルの日常を描いた漫画である『きのう何食べた？』（よしながふみ）では、主人公の男性が自分は男性が好きで同性愛者であると両親に伝えると「同性愛者＝外見と内面の性が違う」という勘違い（主人公はトランスジェンダーではなく外見の性も内面の性も男性で、男性として生きており男性の恋人がいる男性の同性愛者）をし、芸能人の美輪明宏さんを例に出し、性同一性障害について調べ始め、セミナーに参加するなどの描写がある。これは極端な例かもしれないが、普通に暮らしている「同性愛」に対しての知識がない人が突然カミングアウトされたら同じような対応をしてしまっても不思議ではない。また、実際の同性愛の方の実体験が書かれている『私たち弁護士夫婦（ふうふ）です』（祥伝社新書）や『多様な「性」がわかる本—性同一性障害・ゲイ・レズビアン』（高文研）などは、同性愛者の方がどのような体験をされどのような考えをされたのか書かれていて非常に興味深いものだった。

本の中では両親や友人にカミングアウトをした時の体験が書かれていることが多か

った。両親から「お前さえ嫌じゃなかったら、一度精神科の医者でカウンセリングを受けてみるか?」と言われたことや学校の先生から「病気じゃないのか」と言われたことや、友人から他の同性の友人と一緒にいたところ、同性愛者であるとは知らず「レズ(ゲイ)っぽい」とからかわれて一緒にいた別の友人が距離を取ったことなど。また、中学生や高校生として学校に通っている時に友人から「好きな人はどんな人」と聞かれた時の返答ができないことや、職場や親戚関係で「どうして結婚しないの」と聞かれ誰にも相談できないことなどが記されていた。私は今まで同性愛者であるとカミングアウトしている人と話したことは無かった。そのため、本に書いてあること以外、どのようなことを考えているのか、何に不安に思っているのか。また、私のように知り合いに同性愛者であるとカミングアウトしていない人からされた時、人々はどのように思うのか。この調査によって少しでも同性愛の人が周囲にそのことを話すことに役に立てないかと思った。

私は、この調査を行うにあたって様々な人の意見を聞いた。「同性愛のメディアを好む人」、「男子のみの高校出身の人」、「知人が同性愛者の人」、「同性愛者の親友がいる人」など。その中で、私の周囲にいる人間は私の調査を肯定とも否定ともしない人が多数だった。中には、協力的な友人もいたが、「興味はあるけど調べる必要性を感じない」のようにどちらかという傍観的な態度をとった友人が多かった。また、それ以外にも「何か悩んでいるなら相談してね」など私自身が同性愛者であると勘違いをするという対応をした友人もいた。私自身は異性愛者であり、同性愛者の友人もいないため、身近にリアルな同性愛のことを教えてくれる人はいなかった。だが、漫画やアニメーションなどのサブカルチャーのジャンルとしての同性愛を好む友人がいたためある程度の知識としては持っていた。私自身は漫画のジャンルの1つである同性愛の「ボーイズラブ」の作品を知っていて、触れたことがあったため特に嫌悪感を抱かなかった。周囲の同じような友人も反応としては私と同じようなものだった。しかし、同性愛を扱った男性同士の「ボーイズラブ」や女性同士の「百合」などと呼ばれるジャンルに全く触れたことの無い友人の中には同性愛者に会ったことがないため「全く同性の人を好きになる気持ちが想像できない」という意見や、漫画のジャンルを好んでいる人自体に「嫌悪感を抱いている」という意見もあった。私は、この実体験より同性愛者への意識の差が同性愛メディアへの接触が少なからず関わっているのではないかと考えた。

ここ数年で漫画やアニメなどのサブカルチャーは「クールジャパン」として世界的に有名となり、2000年から「Japan EXPO」というヨーロッパで日本の文化を紹介する展覧会でもクールジャパンは注目を集めているといえる。また、日本最大級のコミックの展覧販売を目的とした「コミックマーケット」も2015年は夏の3日間だけでも55万人(公式HPより)という人数が来場している。このようなことからサブカルチャーは比較的好意的なイメージに変化したと考えられる。最近では「腐女子(男性同士の恋愛を好む女性)」をメディアが取り上げ、ちょっとした話題になっている。2015年にNHKで放送された「オトナヘノベル」という番組では「2次元への恋」を特集にし、「BL(「ボーイズラブ」という男性同士の恋愛が描かれている)」というジャンルを掘り下げて紹介している。それ以外にも朝の情報番組や深夜の番組で特集が組まれている。このことから、同性愛者に対する態度についてメディアが関わっている可能性が

大きいと考えられる。しかし、だからと言ってメディアのみが影響を与えているわけではないだろう。(石原 [2012]) を元にした(吉仲・風間・石田・河口・釜野 []) では、職業によって態度の変化がある可能性を指摘している。この論文では男性同性愛者と女性同性愛者への態度を別々に調査しており「同性愛に否定的な意識を示す割合は、いわゆるホワイトカラー職の中では女性同士の手つなぎ以外管理職が最も高い」となっている。ただ、この調査は管理職の人数が少なかったこともあり有意な差はみられていない。また、(山下・源氏田 [1996]) では性別での態度の差も見られている。この先行研究の結果からも同性愛者への態度についてはメディア接触のみが関わっているのではない可能性が高い。また、同性愛を描いたメディア(ここでは「同性愛メディア」と表現する)に全く接触したことがない人でも友人知人にいることで態度の変化がある可能性も考えられる。この考えから今回の調査を行いたいと考えた。

この調査は、同性愛に対する意識と同性愛者への意識の違いが生活の中で何が関係しているのかを考察するための調査である。今までの研究ではメディアとの関係性を調査している研究(山下・源氏田 [1996])がある。調査は10年前であり調査では印刷メディアにふれている人の方が同性愛者への態度は好意的であるという結論がでていた。しかし、その時代は現代のようなインターネット環境やメディア環境が発達していないため現代ではもっと違う結果が出るのではないかと考えた。今回この調査により同性愛者への差別が少しでも減少することを祈っている

2. 調査方法

2-1. 調査研究の経緯

- 4～6月 調査テーマ討論
文献調査による情報収集
- 7月 予備調査の調査票の作成と実施
- 8～11月 調査票作成
- 12月 本調査実施
- 1～2月 集計・分析

2-2. 調査の概要

大学生を対象に同性愛者への態度と同性愛を中心としたメディアへの接触状況について調査する。

2-2-2. 予備調査

- ・調査時期
2016年7月
- ・調査対象者
文教大学湘南キャンパスの聳塔祭実行委員会所属の学生
- ・調査方法
紙面による自記式アンケートの集合調査を定例ミーティングにて行った。

- ・調査人数
 - 依頼数 72
 - 有効回答数 72
 - 回収率 100%

2-2-3. 本調査

- ・調査時期
 - 2016年12月9日～23日
- ・調査対象者
 - 文教大学湘南・越谷キャンパス学生の全学部学科の学生
- ・調査対象者の決定方法
 - 文教大学に通う全学生から無作為抽出法により調査対象人数を算出
 - 続いて、学部学科別に人数の割り当てを行うため層化抽出法を行った。その結果を基に調査対象者を決定
- ・調査方法
 - 学籍番号へのメールによるインターネット上でのアンケート調査
- ・調査人数
 - 依頼数 374（うち7名は学籍番号が該当せず）
 - 有効回答数 73
 - 回収率 19.89%

図表—01 調査対象者学科別割合（越谷キャンパス）

教育学部		人間科学部			文学部		
学校教育課程	心理教育課程	人間科学科	臨床心理学科	心理学科	日本語日本文学科	英米語英米文学科	中国語中国文学科
46 (12.3%)	19(5.1%)	28(7.5%)	25(6.7%)	28(7.5%)	26(7.0%)	27(7.2%)	20(5.3%)

図表—02 調査対象者学科別割合（湘南キャンパス）

情報学部					国際学部		健康栄養	経営学部
広報学科	経営情報学科	情報システム学科	情報社会学科	メディア表現学科	国際理解学科	国際観光学科	管理栄養学科	経営学科
8(2.1%)	8(2.1%)	22 (5.9%)	12 (3.2%)	14 (3.7%)	23 (6.1%)	26 (7.0%)	18 (4.8%)	24 (6.4%)

2-3. 質問項目

A 態度について

- ・ タトゥーをしている人への態度（5段階）
- ・ 浮気・不倫をしている人への態度（5段階）
- ・ 同性愛者への態度（5段階）
- ・ (体型が) 太っている人への態度（5段階）

B メディアについて

- ・ 1か月の印刷メディアの接触量（印刷された媒体、電子書籍、インターネット）
- ・ 1週間の映像メディアの接触量（TV、インターネット）

C 同性愛メディアについて

- ・ 接触経験の有無
- ・ 初接触時の年齢、媒体、きっかけ
- ・ 経験のある同性愛メディアの媒体、作品

D 同性愛メディアへの態度について

- ・ 同性愛メディアを好む人への態度（3段階）
- ・ 同性愛メディアを扱うメディア媒体への態度（5段階）
- ・ インターネットや漫画用語の知名度

E 同性愛者への接触経験と態度について

- ・ 同性のみの学校経験の有無
- ・ 同性愛者への接触経験の有無
- ・ 同性愛者友人・知人への態度（3段階）

F 同性愛への知識について

- ・ 同性婚、同性愛者の割合、性同一性障害についての問題

G 回答者個人について

- ・ 所属学科、学年、性別、出身都道府県

2-4. 仮説

- ① 同性愛メディアの接触経験がある人はそうでない人よりも同性愛者に好意的な印象を持つ
- ② 親戚や友人、知人に同性愛者がいる人はそうでない人よりも同性愛者に好意的な印象を持つ
- ③ 同性愛者に対しての知識がある人はそうでない人よりも同性愛者に好意的な印象を持つ
- ④ 同性愛者への態度の影響は同性愛者が知人友人にいたことが最も大きい
- ⑤ 同性愛メディアに触れていない人は同性愛メディアを好む人に対して嫌悪感を抱く
- ⑥ 同性愛メディアに初めて触れたメディア媒体はインターネットメディアが最も多い
- ⑦ 同性愛者への態度への影響が大きいメディア媒体は印刷メディアである

3. 調査研究の結果

3-1 回答者の割合について

回答者の内訳は以下の表のようになった。

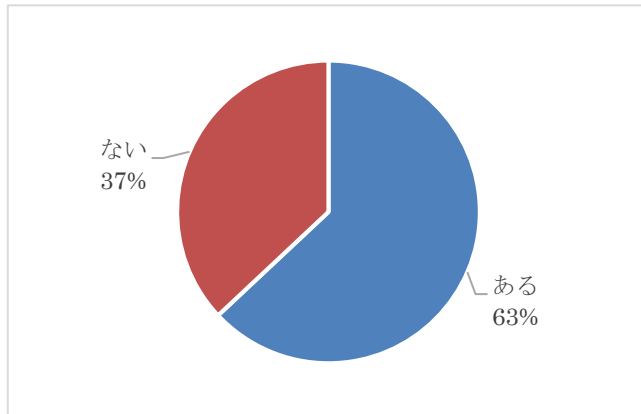
男性	女性	合計
30.1% (22)	69.9% (51)	100% (73)

教育学部	人間科学部	文学部	情報学部	国際学部	健康栄養学部	経営学部
8.5% (6)	8.5% (6)	16.9% (12)	22.5% (16)	21.1% (15)	11.3% (8)	11.3% (8)

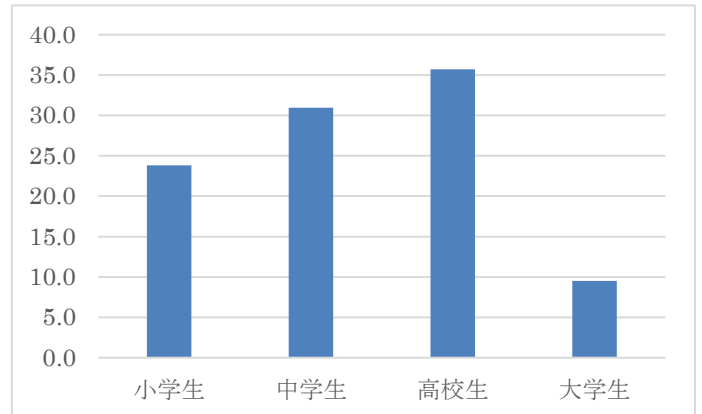
3-2 同性愛メディアの経験について

本調査では、同性愛（男性同士もしくは女性同士の恋愛）について描かれているメディアについて「同性愛メディア」ということにする。同性愛メディアについての接触経験の有無を質問したところ図表—03にあるように63.0%の人が接触経験があると回答した。また、「経験がある」と回答した人に同性愛メディアへ初めて接触した年齢を聞いたところ、年齢別でみると16歳という回答がもっとも多く11.0%、次いで14歳（8.2%）、12歳（5.5%）という年齢となった。その回答を「小学校」、「中学校」、「高校」と変更したものが図表—04である。なお、この質問では「中学生」は14歳、「高校生」は17歳に変更し、「わからない」は欠損値として除外している。初めて触れた媒体について聞いたところインターネットが多く41.3%、次いで映像が34.8%、印刷が23.9%となった。（図表—05）同じようにきっかけを聞いたところ、「友人」23.9%、「兄弟・姉妹」4.3%、「インターネット上の友人・知人」2.2%「誰からも進められていない」58.7%、となった。（図表—06）その他には「映画のレビュー」や「学校の授業」などがあった。この結果から6割近い人は、誰からも進められず自分から同性愛メディアに触れていったということが分かった。また、この結果を媒体ごとに分けると、「映像メディア」34.8%、「印刷メディア」23.9%、「インターネット」41.3%、となった。媒体としてはインターネットメディアが最も多いが、ほかの媒体との有意差は見られなかった。

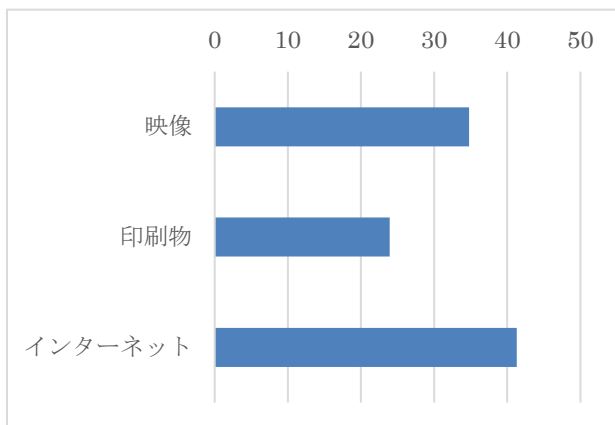
図表—03 メディア経験の有無
(N=73 単位：%)



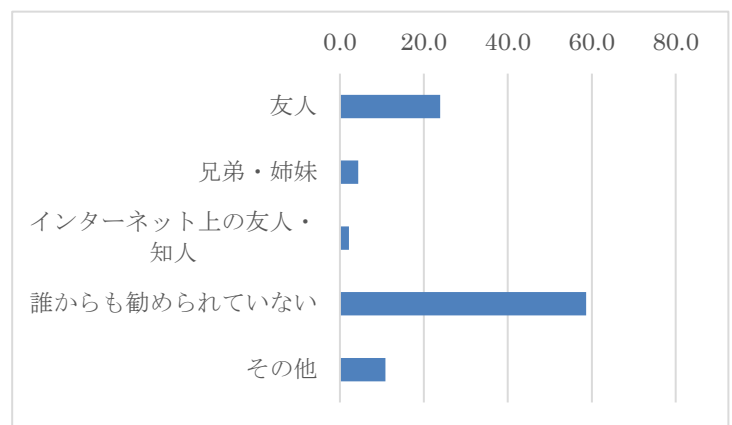
図表—04 初めて触れた年齢
(N=44 単位：%)



図表—05 メディアの種類
(N=46 単位：%)



図表—06 触れたきっかけ
(N=46 単位：%)



また、図表—03のメディア経験の有無で「経験がある」と回答した人に接触経験のある同性愛メディアの媒体を聞いた時の回答が図表—07である。このことから同性愛メディアにおいてはサブカルチャーの1つである漫画やアニメーションと実写の物語やドキュメンタリーなどの映像に触れる機会が同じくらいあるということが結果としてあらわされた。だが、回答の傾向としてこのメディアの種類を選択には、特定のばらつきがあるように感じられた。そのため、分析で用いた変数を同時に複数個投入して、メディアの種類と各コーディング・カテゴリーとの関係を 図示したい。

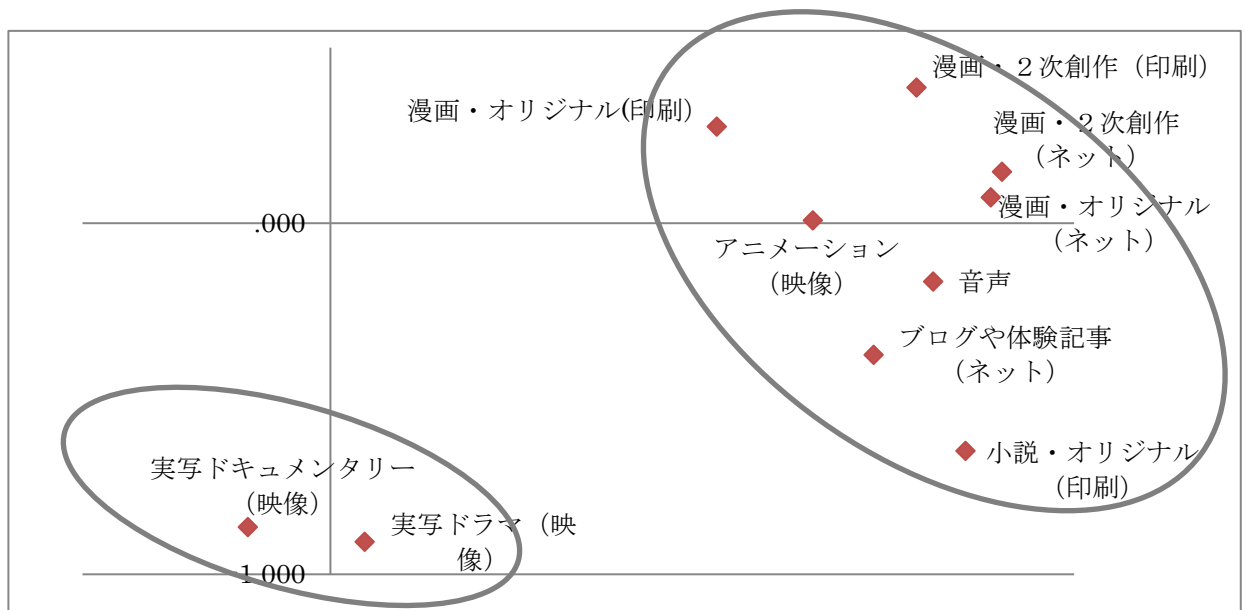
図表—07 メディアの種類（複数回答）
（N=173 単位：％）

そこで多重コレスポンデンス分析を行うことにする。まず分析変数には「漫画・オリジナル（印刷）」「漫画・2次創作（印刷）」「漫画・2次創作（ネット）」「漫画・オリジナル（ネット）」「アニメーション（映像）」「音声」「ブログや体験記事（ネット）」「小説・オリジナル（印刷）」「実写ドキュメンタリー（映像）」「実写ドラマ（映像）」を投入した。

データは変数主成分で正規化され、投入した各変数のカテゴリーのカテゴリポイントをプロットした。横軸の Cronbach の α は 0.92（固有値 =6.47、寄与率 =49.77）、縦軸の α は 0.30（固有値 =1.38、寄与率 =10.61）となっている。図表—08 はその結果を図にしたものであるが、「漫画・オリジナル（印刷）」「漫画・2次創作（印刷）」「漫画・2次創作（ネット）」「漫画・オリジナル（ネット）」「アニメーション（映像）」「音声」「ブログや体験記事（ネット）」「小説・オリジナル（印刷）」の8つから成り立つ「サブカルチャー要素の強いグループ」と「実写ドキュメンタリー（映像）」「実写ドラマ（映像）」の「ドキュメンタリー要素の強いグループ」の2種類に分けられた。

メディア名	
実写のドラマや映画(映像)	11.0
実写ドキュメンタリー(映像)	10.4
アニメーション(映像)	9.2
音声	6.4
漫画・オリジナル(印刷)	11.6
漫画・2次創作(印刷)	8.7
小説・オリジナル(印刷)	5.8
小説・2次創作(印刷)	4.6
静止画、漫画・オリジナル(ネット)	7.5
静止画、漫画・2次創作(ネット)	8.1
小説・オリジナル(ネット)	5.8
小説・2次創作(ネット)	6.4
ブログや体験記事(ネット)	3.5
その他	1.2

図表—08 メディアの種類（複数回答）（N=173 単位：％）



3-3 同性愛への知識について

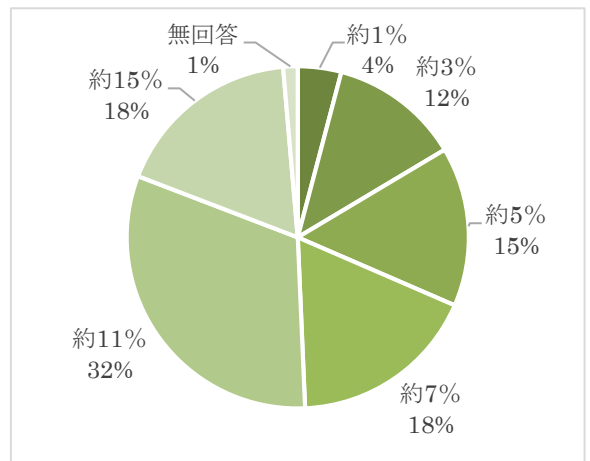
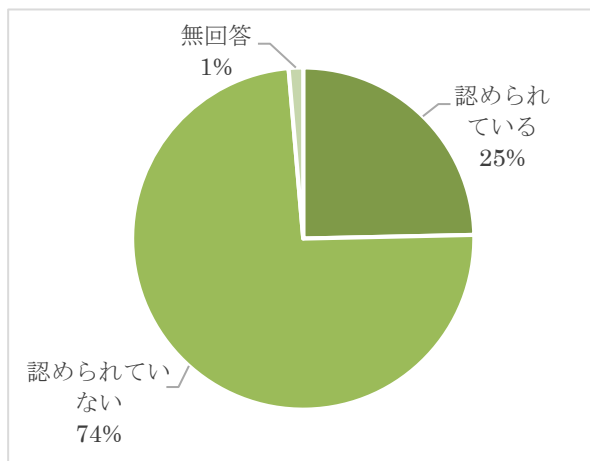
「同性愛」に対してどの程度知識があるのかを検証するため、3つの質問を行った。まず1つ目は、「2016年12月現在、日本では同性婚が認められていると思いますか」という質問である。その回答をグラフにしたものが図表—09である。この

質問に対する正解は「認められていない」である。この結果から25%の人は日本国内で同性婚が認められていると考えているということが分かった。この結果においては、渋谷区で始まった「同性パートナーシップ条例」を「結婚」と同等であると認識している人がいるのではないかと推測される。

次に2つ目の質問として「日本に同性愛者はどのくらいの割合でいると思いますか」に対する回答として「約1%」から「約15%」まで6つの選択肢から1つ選ぶ形で質問をした。その結果が図表—10である。この質問に対する正解は「約1%」（電通ダイバーシティ・ラボより、レズビアン0.5%、ゲイ0.9%、合計1.4%、LGBT全体では7.6%）である。この結果から、同性愛者は実際よりも多いと思われるという傾向が見られた。

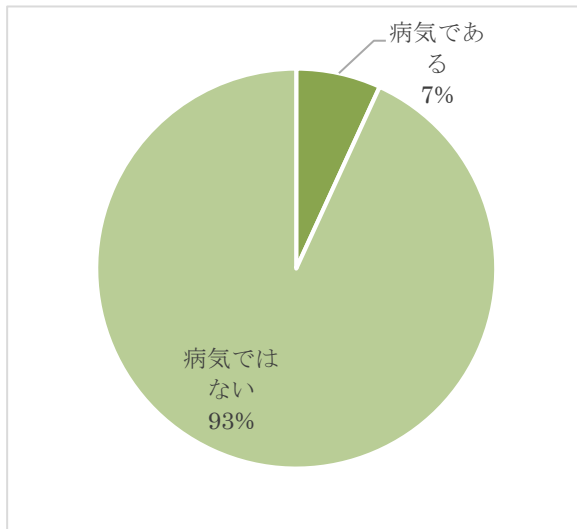
次に3つ目の質問として「同性愛者は全員、性同一性障害という病気だと思いますか」という質問をした。その結果が図表—11である。この質問に対する正解は、「病気ではない」である。「性同一性障害」という病名には様々な考え方があがるが、病気自体の認識として、外見の性と内面の性（心の性）が違うという部分があり、この症状に同性愛者全員が当てはまるわけではないため「病気ではない」を正解とする。この結果を見ると、93%の人は正解しているが7%の人は正しく理解していないことになる。この分析結果から、同性愛への知識が十分であるとは言えないという結果が出た。

図表—09 同性婚が認められている（質問） 図表—10 同性愛者の割合（質問）
（N=73 単位：%）



図表—11 同性愛と性同一性障害（質問）

(N=73 単位：%)



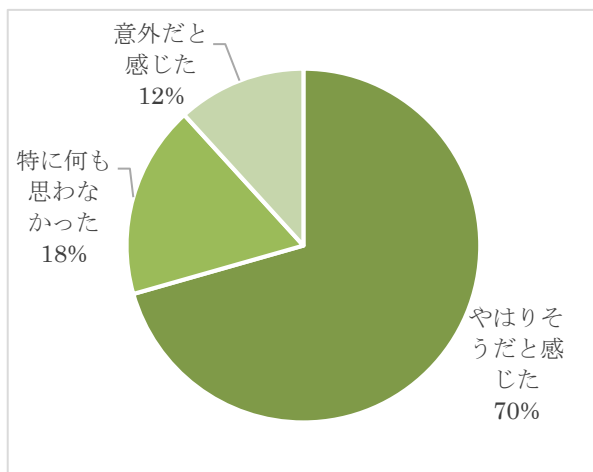
3-4 態度について

3-4-1 同性者友人知人への態度と態度の変化について

同性愛者の友人・知人がいると回答した人に、その友人・知人が同性愛者だと知った時の態度について、それぞれ1から3までの3段階で聞いた。これは、1に近づくにつれ好意的な変化、3に近づくにつれ非好意的な変化である。それぞれ、「話しやすさ」1.82、「親しみやすさ」1.88、「信頼感」1.65、「好ましさ」2.00である。この結果を見ると「好ましさ」以外の項目では好意的な変化があった傾向がみられる。また、図表—12、図表—13にあるのは「同性愛者だと聞いたときどう思いましたか」、「その後、実際に態度の変化がありましたか」という質問に対する回答をグラフにしたものである。この結果を見ると同性愛者であるとする前から70%の人は同性愛者ではないかを感じ取っていたという結果になった。また、その後の態度の変化は24%の人は実際に態度に変化があったという回答を得られた。

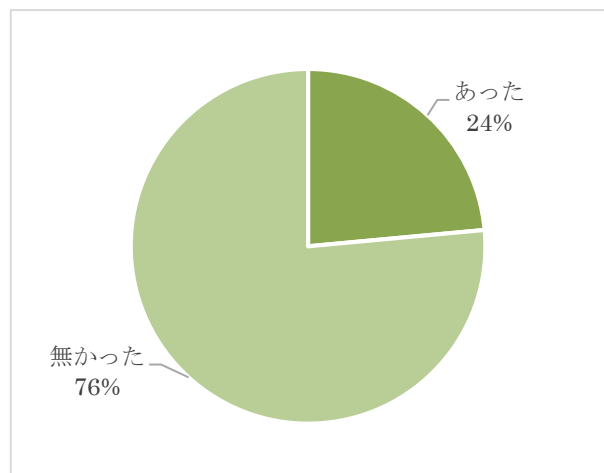
図表—12 同性愛友人への態度

(N=17 単位：%)



図表—13 同性愛者友人への態度変化

(N=17 単位：%)



3-4-1 同性愛者とそれ以外の態度についての比較

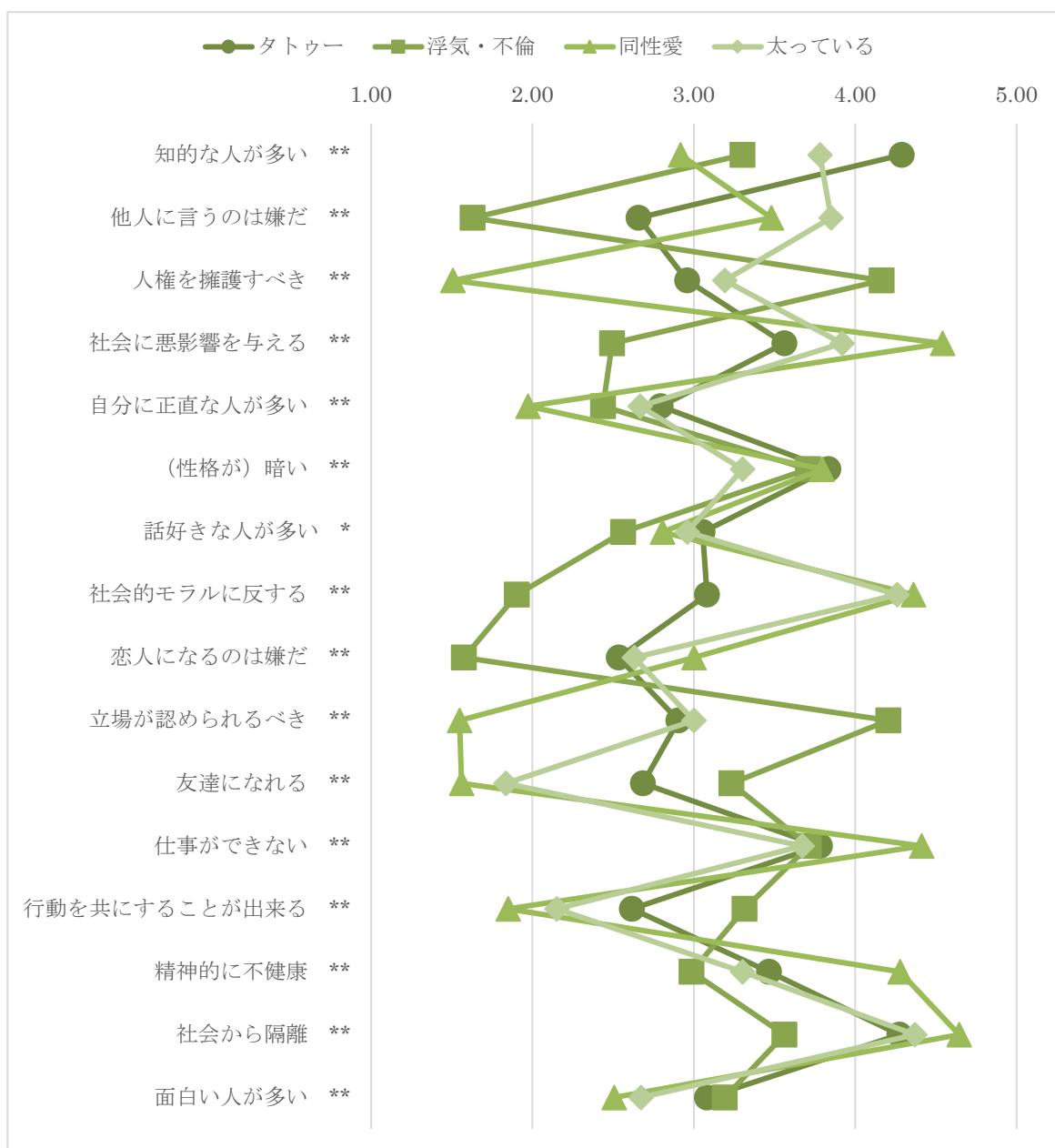
同性愛者への態度については（宮澤・福富〔2008〕）の尺度を引用し、その中なら好意的要素と非好意的要素それぞれ 8 項目合計 16 項目について調査を行った。また、同性愛者への社会的関心の高まりを考慮してダミーとして「タトゥーを入れている人」「浮気・不倫をしている人」「(体型が) 太っている人」という 3 要素を加えて「1.とてもそう思う」から「5.まったくそうは思わない」までの 5 段階の尺度で質問した。その結果を一元配置分析し、まとめたものが図表—14、15 である。この質問についてはすべての項目で有意な差が見られた。この結果からすべての項目においては相手の外的もしくは内的な思考や変化によって態度や思想が変化するということである。

図表—14 同性愛友人への態度

「知的な人が多い」	f=27.200,df=291,p>.01
「家族にいたら、それを他人に言うのは嫌だ」	f=44.018,df=291,p>.01
「その人の人権を国がもっと擁護すべきだ」	f=71.893,df=291,p>.01
「社会に悪影響を与える存在だ」	f=44.192,df=291,p>.01
「自分に正直な人が多い」	f=6.250,df=290,p>.01
「(性格が) 暗い」	f=3.883,df=289,p>.01
「知的な人が多い」	f=27.200,df=291,p>.01
「話好きな人が多い」	f=2.975,df=290,p>.05
「社会的モラルに反する」	f=88.036,df=290,p>.01
「恋人になるのは嫌だ」	f=15.597,df=291,p>.01
「社会的な立場がもっと認められるべきだ」	f=72.079,df=291,p>.01
「友達になれる」	f=33.207,df=291,p>.01
「仕事ができない」	f=7.492,df=291,p>.01
「行動を共にすることが出来る」	f=22.321,df=291,p>.01
「精神的に不健康である」	f=14.601,df=290,p>.01
「社会から隔離した方が当人のためだと思う」	f=16.550,df=291,p>.01
「面白い人が多い」	f=7.110,df=291,p>.01

(※「社会に悪影響を与える存在だ」の同性愛者、「自分に正直な人が多い」の(体系の) 太っている人、「(性格が) 暗い」のタトゥーを入れている人、浮気・不倫をしている人、「話好きな人が多い」の同性愛者、「社会的モラルに反する」の同性愛者、は N=72)

図表—15 それぞれの態度について (N=73)



3-4-3 同性愛者への態度の影響について

3-4-3-1 同性愛者への態度について

ここでは、態度に対する尺度を因子分析した結果をまとめていく。図—00はその結果である。因子分析の結果、5つの因子が検出された。第1因子には「対人的因子」、第2因子には「性格的因子」、第3因子には「精神的因子」、第4因子には「社会的悪印象因子」、第5因子には「恋愛関係因子」と名付けた。第1因子には「社会に悪影響を与える存在だ」（ここでは因子負荷量がマイナスであるため「社会に悪影響を与えない存在だ」という、別の因子に含まれそうなものがあるが、これは他人に影響に関係しているという意味で対人関係であるということでこの因子が妥当である。

図表—16 因子分析結果

	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	平均 値
行動を共にすることができる	.855	.015	.108	-.133	.107	.190
社会的な立場がもっと認められるべきだ	.845	.323	-.197	-.041	-.133	.159
友達になれる	.797	.365	-.080	-.249	.021	.171
その人の人権をもっと国が擁護すべきだ	.770	.439	-.145	.006	-.196	.175
社会に悪影響を与える存在だ	-.689	.056	.468	.112	.105	.010
話好きな人が多い	.080	.785	-.246	.192	-.028	.157
面白い人が多い	.210	.759	-.020	-.237	-.016	.139
知的な人が多い	.134	.701	.241	-.283	-.062	.146
自分に正直な人が多い	.206	.556	-.119	.452	.304	.280
(性格が) 暗い	-.021	-.068	.849	-.115	.027	.135
精神的に不健康である	-.137	-.107	.828	.153	.026	.153
社会的モラルに反する	-.442	.210	.545	.265	.368	.189
家族にいたら、それを他人に言うのは嫌だ	-.192	-.203	-.002	.769	.148	.104
仕事ができない	-.212	-.024	.513	.581	-.417	.088
社会から隔離したほうが当人のためだと思う	-.423	.061	.302	.456	.195	.118
恋人になるのは嫌だ	-.121	-.053	.087	.133	.893	.188

因子(平方和、寄与率)	因子の内容
第1因子 (3.7、23.4%) 対人的因子	「行動を共にすることが出来る」「友達になれる」 「社会的な立場がもっと認められるべきだ」 「その人の人権を国がもっと擁護すべきだ」 「社会に悪影響を与える存在だ」
第2因子 (2.5、25.8%) 性格的因子	「話好きな人が多い」「面白い人が多い」 「知的な人が多い」 「自分に正直な人が多い」
第3因子 (2.5、15.6%) 精神的因子	「(性格が)暗い」「精神的に不健康である」 「社会的モラルに反する」
第4因子 (1.7、10.8%) 社会的悪印象因子	「家族にいたら、それを他人に言うのは嫌だ」 「仕事ができない」 「社会から隔離した方が当人のためだと思う」
第5因子 (1.3、8.4%) 恋愛関係因子	「恋人になるのは嫌だ」

3-4-3-2 態度の影響について

次に、同性愛者に対する態度に何が関わっているのかを調べるため、「性別」「同性愛への知識」「同性愛メディア経験の有無」「同性愛者友人の有無」と独立したサンプルの T 検定を行った。それぞれのグラフは 1 に近づくにつれ否定的、5 に近づくにつれ好意的になっている。

3-4-3-2①性別と態度 (図表—17)

「性別」と「態度」の T 検定をした結果をまとめたグラフである。「恋愛関係因子」において 1%水準で有意な差が見られた。男性よりも女性のほうが恋愛関係において好意的な傾向が見られた。つまり、男性は同性である男性と恋愛関係になることに女性と比べて否定的であるという結論が得られた。

3-4-3-2②同性愛への知識と態度 (図表—18)

「同性愛者への知識」と「態度」の T 検定の結果をまとめたグラフである。なお、ここである「同性愛への知識」は「2016年現在、日本で同性婚が認められていますか」という質問に対する回答で「認められている」と答えたものは不正解で「知識がない」という判断をしている。この分析では特に有意差は見られなかった。

3-4-3-2③同性愛メディア経験の有無と態度 (図表—19)

「同性愛メディア経験の有無」と「態度」の T 検定の結果をまとめたグラフである。この分析では、「対人的因子」「恋愛関係因子」において 1%水準、「性格的因

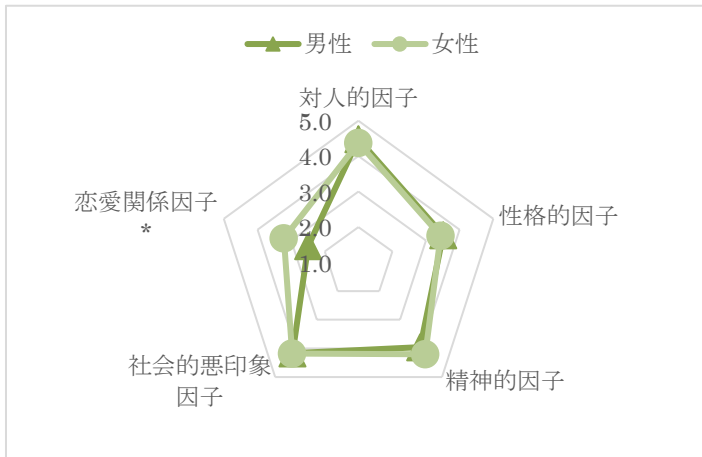
子」「社会的悪印象因子」において5%水準で有意な差が見られた。この分析から、同性愛メディア経験がある人のほうが、ない人よりもかなり好意的な傾向が見られた。この結果により仮説①は立証された。

3-4-3-2④同性愛者友人の有無と態度（図表—20）

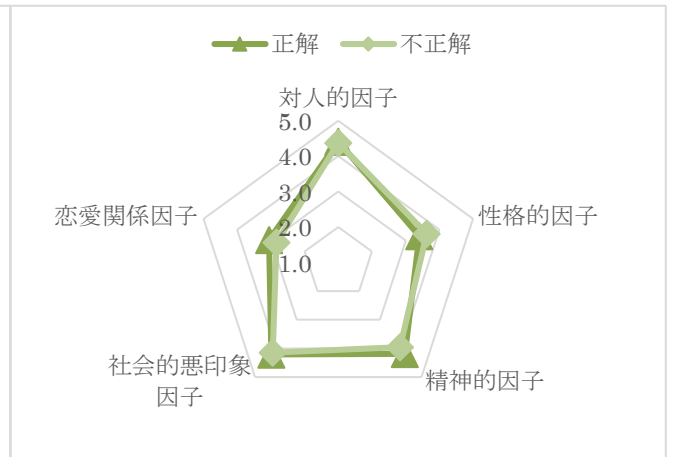
「同性愛者友人・知人の有無」と「態度」のT検定の結果をまとめたグラフである。この分析では有意な差は見られなかった。この分析結果により、仮説②は棄却された。

以上の結果より、同性愛者への態度については、同性愛メディア経験が最も影響していることになるため、仮説④は棄却された。

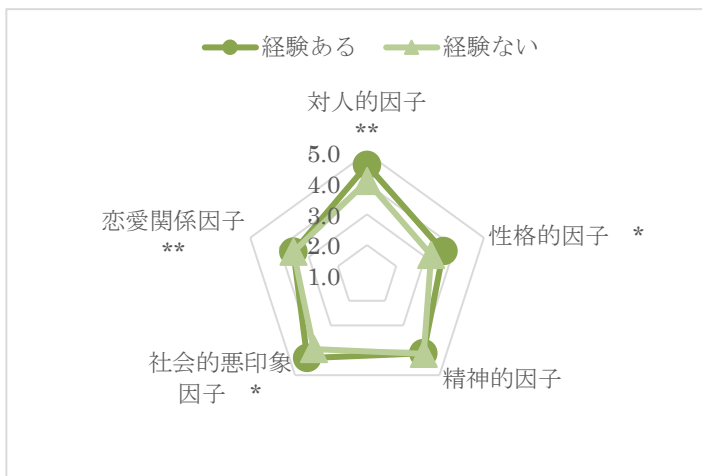
図表—17 性別と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



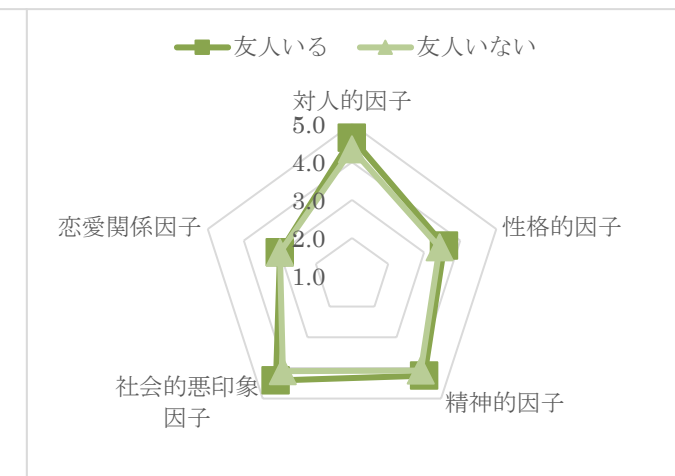
図表—18 同性愛への知識と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



図表—19 同性愛メディア経験の有無と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



図表—20 同性愛者友人の有無と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



3-4-3-3 メディア接触量の態度への影響について

同性愛者に対する態度にメディア接触量がどの程度関わっているかを調べるため、3-4-3 で出した因子とメディア接触量を独立のある T 検定にかけた。その結果が以下の通りである。ここにあるメディア接触量とは、回答者に 1 週間または 1 カ月間にどのくらいそのメディアに接していたかを数字で自由に記入してもらった。その平均値を出し、平均よりも多いものと少ないものにグループ分けをした。

3-4-3-3①印刷メディア接触量と態度について（図表—21）

「1 カ月に平均で何冊くらいの印刷された本を読みますか」という質問に対する回答の平均をもとにグループ分けし、因子と T 検定を行ったものである。この分析から「恋愛関係因子」において 5%水準で有意な差が見られた。このことから、恋愛関係において印刷メディアは好意的な印象を与える傾向があるといえる。

3-4-3-3②電子書籍接触量と態度について（図表—22）

「1 カ月に平均で何冊くらいの電子書籍を Web などのインターネット上で読みますか」という質問に対する回答の平均をもとにグループ分けし、因子と T 検定を行ったものである。この分析では、有意な差は見られなかった。

3-4-2-3③Web・漫画アプリ接触量と態度について（図表—23）

「1 カ月に平均で何話くらいの漫画または小説などを Web やアプリなどのインターネット上で読みますか」という質問に対する回答の平均をもとにグループ分けし、因子と T 検定を行ったものである。この分析から「恋愛関係因子」において 5%水準で有意な差が見られた。このことから、恋愛関係において漫画アプリは好意的な印象を与える傾向があるといえる。

3-4-3-3④TV 映像接触量と態度について（図表—24）

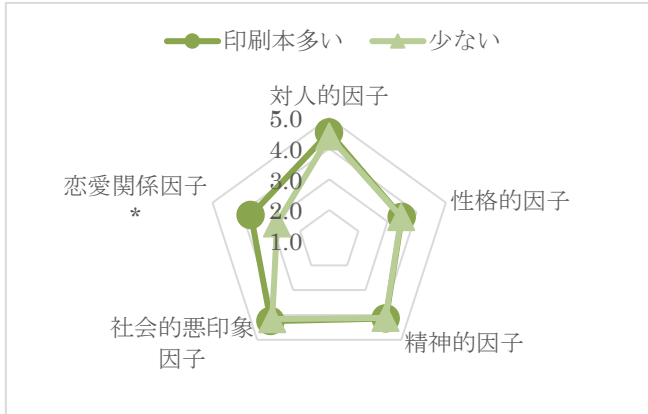
「1 週間に平均で何時間くらい、テレビで映像を見ていますか」という質問に対する回答の平均をもとにグループ分けし、因子と T 検定を行ったものである。この分析では、有意な差は見られなかった。

3-4-3-3⑤インターネット・映像接触量と態度について（図表—25）

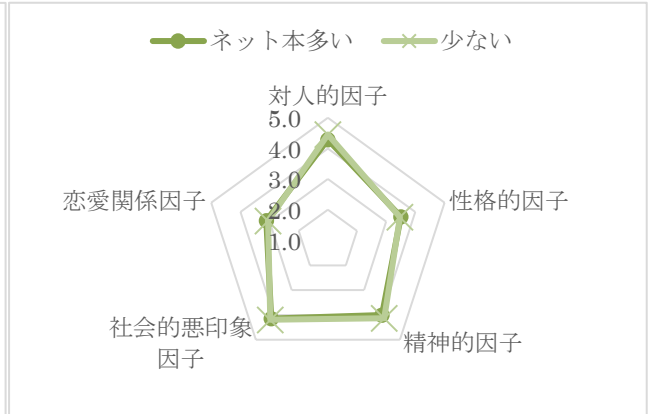
「1 週間に平均で何時間くらい、インターネット上で映像を見ていますか」という質問に対する回答の平均をもとにグループ分けし、因子と T 検定を行ったものである。この分析では、有意な差は見られなかった。

このことから、仮説⑦は棄却されなかったが肯定されるほどの傾向も見られなかった。つまり、印刷メディアは影響している傾向はあるが、それが影響していると結論付けることのできる結果は得られなかった。

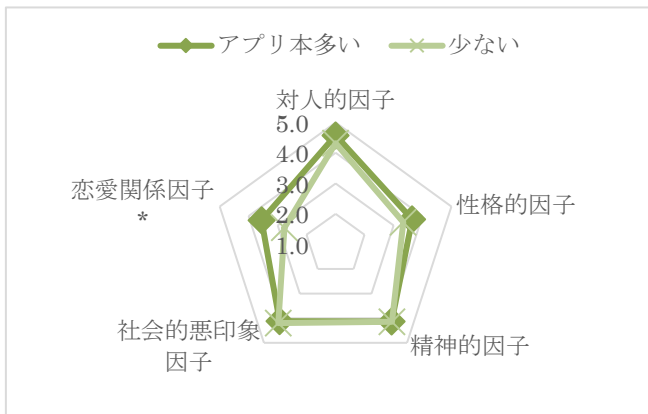
図表—21 印刷接触量と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



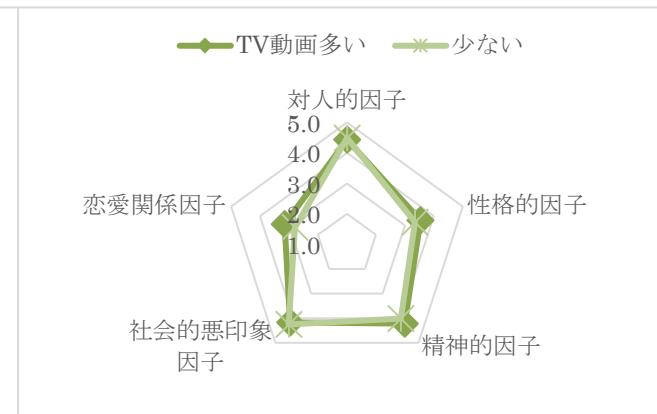
図表—22 電子書籍接触量と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



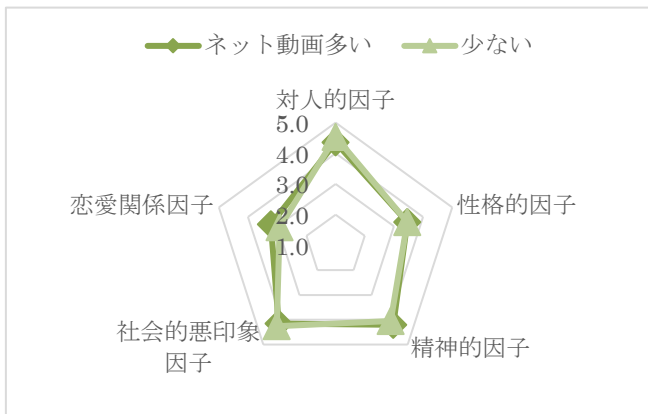
図表—23 アプリ接触量と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



図表—24 TV映像接触量と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



図表—25 ネット動画接触量と態度
(N=73 ※精神的因子のみ N=71)



3-5 同性愛メディアへの理解について

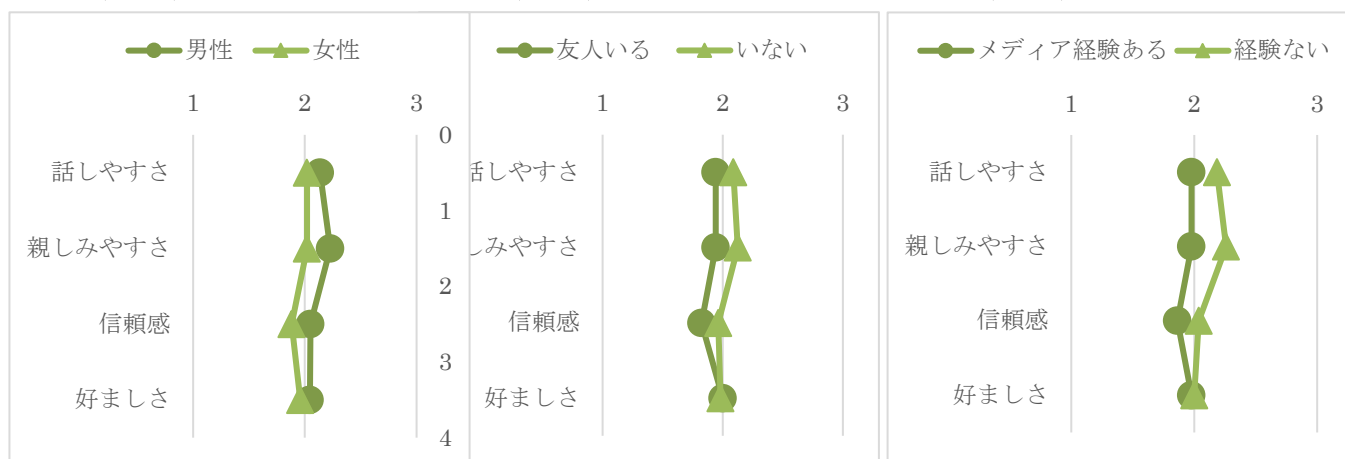
3-5-1 同性愛メディア利用者への態度について

「同性愛メディアを好む人に対してどう思いますか」という質問をそれぞれ1から3までの3段階で聞いた結果を表したものが図表—26、27、28である。このグラフは1に近づくにつれ好意的な変化、3に近づくにつれ非好意的変化である。この分析において有意な差は見られなかった。

図表—26 性別と態度
(N=73)

図表—27 友人有無と態度
(N=73)

図表—28 経験と態度
(N=73)

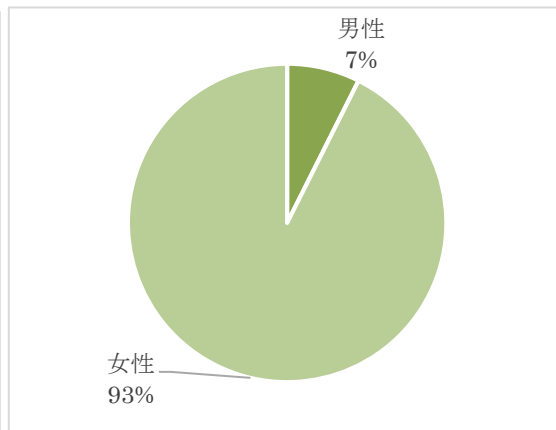
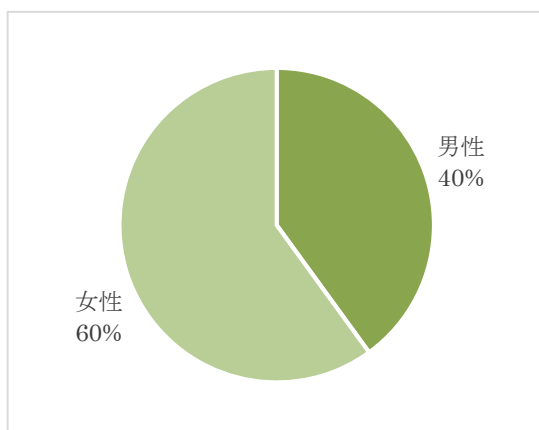


3-5-2 同性愛メディア作品について

同性愛メディア経験があると回答した人に、同性愛メディアの実際の作品名を挙げて作品に触れたことがあるかどうかを調査した。作品は男性同士の恋愛作品が4作品（『純情ロマンチカ（中村春菊）』『同級生（中村明日美子）』『抱かれない男1位に脅かされています（桜日梯子）』『囀る鳥は羽ばたかない（ヨネダコウ）』）、女性同士の恋愛作品が4作品（『ゆるゆり（なもり）』『やがて君になる（仲谷鳩）』『桜 Trick（タチ）』『citrus（サブロウタ）』）、計8作品と「あてはまるものはひとつもない」を加えた9項目で調査を行った。その回答を性別とのクロス集計をし、男性同士の恋愛作品と女性同士の恋愛作品に触れたことがある人の男女比を分析した。なお、この質問は同性愛メディアに触れたことのある人にしか質問していないため回答数は、男性16、女性52である。

図表—29 女性同士の恋愛作品
(N=47 単位：%)

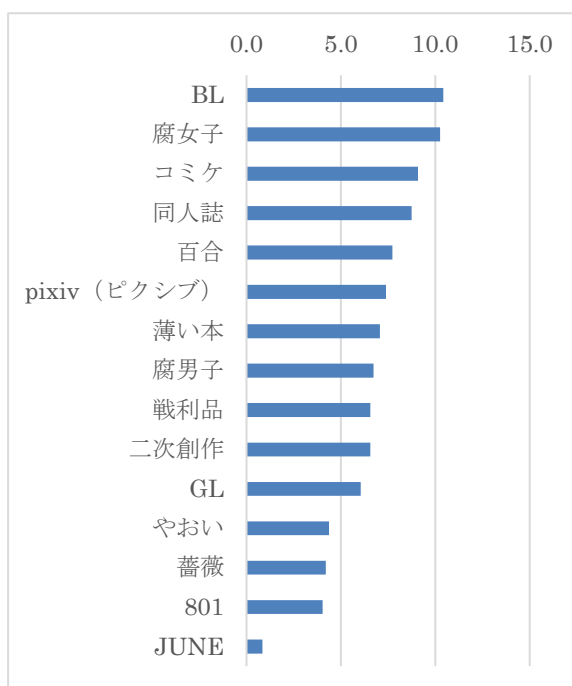
図表—30 男性同士の恋愛作品
(N=47 単位：%)



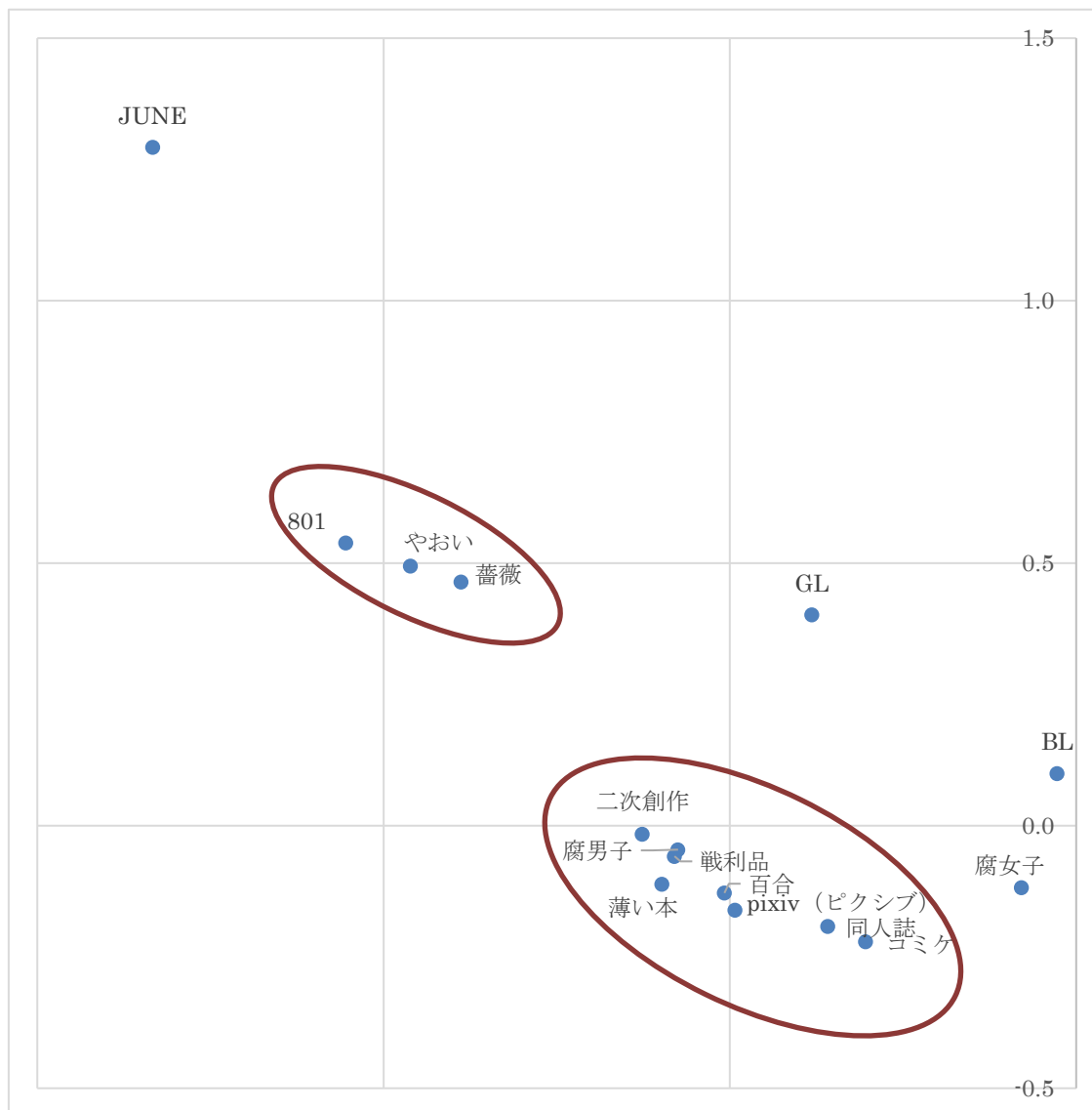
3-5-3 サブカルチャー用語について

同性愛メディアやサブカルチャーへの理解度を調べるため、漫画やインターネットで利用される言語を知っているかどうか質問した。図表—31は言語を「知っている」と答えた人が多かった順に並べ替えてグラフにしたものである。また、用語を「同性愛を表す用語（BL・GL・百合・薔薇）」「同性愛愛好者（腐女子・腐男子）」「漫画用語（同人誌・pixiv・薄い本・二次創作）」「漫画イベント用語（コミケ・戦利品）」「同性愛の漫画用語（やおい・801・JINE）」の6種類に分類した。この結果は「同性愛を表す用語」28.4%、「同性愛愛好者」17.0%、「漫画用語」29.7%、「漫画イベント用語」15.6%、同性愛の漫画用語」9.24%、となった。この結果を見ると漫画用語や同性愛を表す用語は比較的知名度が高いが、漫画イベント用語や同性愛漫画用語は知名度が低いことがわかる。また、用語についての回答の傾向として用語の知名度には、特定のばらつきがあるように感じられ、場合によっては複数の種類ごとに分類できる可能性も感じた。そのため、分析で用いた変数を同時に複数個投入して、用語と各コーディング・カテゴリーとの関係を 図示したい。そこで多重コレスポネンス分析を行うことにする。まず分析変数には「BL」「GL」「百合」「薔薇」「腐女子」「腐男子」「同人誌」「pixiv」「薄い本」「二次創作」「コミケ」「戦利品」「やおい」「801」「JINE」を投入した。データは変数主成分で正規化され、投入した各変数のカテゴリーのカテゴリポイントをプロットした。横軸の Cronbach の α は 0.91（固有値 =6.58、寄与率 =43.84）、縦軸の α は 0.45（固有値 =1.73、寄与率 =11.56）となっている。図表—32はその結果を図にしたものである。この分析によって、「801」「やおい」「薔薇」の3つ用語から成り立つグループと「二次創作」「腐男子」「戦利品」「薄い本」「百合」「pixiv（ピクシブ）」「同人誌」「コミケ」の8つから成り立つ用語の2つのグループに分けられた。

図表—31 用語知名度（複数回答）（N=595 単位：%）



図表—32 用語の最適尺度法の結果（複数回答）（N=595）



4. 調査研究のまとめと考察

今回の調査で同性愛者への態度と同性愛メディアが深くかかわっていることが証明できた。これは、私の考えは間違っていないということが言えるだろう。態度に関する質問では全体として比較好意的な印象を持っていることが分かったが、同性メディアに関わっているかどうか最も影響しており、なおかつ好意的な態度に変化しているという結果をえることが出来た。メディアやサブカルチャーなどで同性愛や同性愛メディアについて取り上げていることは、今後、同性愛への理解や態度に良い影響を与える可能性が高い。しかし、今回の調査は同性愛メディアとの関連性に特化した調査であったため、娯楽的要素の強いメディアと関連付けすぎておりきちんとし

た結果が出ないのではないかとの批判も受けた。確かに、私も同性愛メディアに触れていて趣味的や性的な娯楽要素が他のジャンルの作品よりも多いように感じる時はある。そのため、同じ趣味を共有している仲間同士でも別の友人に自分の趣味を伝えるのは難しく感じる。相手に何と思われるか不安であるからである。私はこの調査を行うことによって自分が「腐女子である」ということが周囲に解けると同じ趣味を持った友人たちが話しかけてくれるようになった。私の周囲には思っただけ以上に趣味を共有できる人がいたようである。このことはこの調査によって得た別の副産物のようなものである。しかし、この調査を行うことで表立って批判はしなかったが共感をしてくれない友人がいたのは事実である。本人は隠していたのかもしれないが、私は感じ取った。もしも、これがカミングアウトをした場合だったら、その友人たちはどのように感じただろうか。この調査からは好意的な数値が出たが、実際にどう感じているか数値として表れていない部分では自分と異なる存在である「同性愛者」というものに対して否定的に考えてしまう部分があるのかもしれない。これから 2020 年に東京オリンピック・パラリンピックが行われるなど海外と接していく日本が本当の国際化ができるのはまだ先なのかもしれない。

5. 参考文献

- 伊藤悟・虎井まさ衛 (2002) 『多様な「性」がわかる本—性同一性障害・ゲイ・レズビアン』 高文研。
- 桐原奈津 坂西友秀 (2003) 「セクシャル・マイノリティに対するセクシャル・マジョリティの態度とカミング・アウトへの反応」『埼玉大学紀要 教育科学』 52(1),
- 南和行 (2015) 『同性婚 私たち弁護士夫婦 (ふうふ) です』 祥伝社新書。
- 溝口彰子 (2015) 『BL 進化論 ポーズラブが社会を動かす』 太田出版。
- 宮沢仁 福富護 (2008) 「同性愛者に対する態度とメディア・リテラシーとの関連」『東京学芸大学紀要. 総合教育科学系』 59 号
- よしながふみ (2007) 『きのう何食べた?』 講談社。
- 和田実 (2010) 「大学生の同性愛開示が異性愛友人の行動と同性愛に対する態度に及ぼす影響」『心理学研究』 81 (4)
- 山本章加 大蔵雅夫 重本津多子 (2012) 「パーソナリティとイメージが同性愛者に対する態度に与える影響」『徳島文理大学研究紀要』 84 号
- 山下玲子 源氏田憲一 (1996) 「同性愛者に対する態度についての一研究 : 男女差, メディア接触量を中心として」『一橋研究』 21(2),
- 吉仲崇・風間孝・石田仁・河口和也・釜野さおり (2015) 「セクシュアル・マイノリティに対する意識の属性による比較-全国調査と大学生対象の先行研究を中心に-」『新情報』 103 号

HUFFPOST LIFESTYLE JAPAN

「【LGBT】性的マイノリティーは全体の 7.6% 電通調査、3年前より増えた理由は？」
(2017 年 2 月 20 日閲覧)

http://www.huffingtonpost.jp/2015/04/22/japan-lgbt-increased_n_7114592.html

「LGBTに関する意識調査」(2017年2月26日閲覧)

<http://lab.oceanize.co.jp/lgbt-know-be/>

NHK「オトナヘノベル」5月12日放送「2次元ラブ どう思う？」(2017年2月26日閲覧)

<http://www6.nhk.or.jp/otona/calender/index.html?i=45>

最後に

今回の調査はジェンダーや深層的な思考に関わるものであり、答えにくい質問や配慮に欠けた質問もあったかと思う。アンケートに回答していただいた皆様を始め、助言をいただいた方、この調査を行うことを認めてくださった指導教員の先生や同期のみんな、その他この調査に協力していただいたすべての方に感謝を申し上げます。

メディアと対人関係についての意識調査

文教大学情報学部メディア表現学科のメディア調査研究法Ⅲを履修している丸田江里菜です。このアンケートは授業で論文を書くために行っている調査です。あなたご自身のことなどプライバシーが漏れることはありません。ご回答をよろしくお願いいたします。

・あなた自身のことについてお聞きします

あなたの性別を教えてください

- 男性 (30.1%)
- 女性 (69.9%)
- その他:

あなたの学年を教えてください

- 1年生 (27.4%)
- 2年生 (28.8%)
- 3年生 (20.5%)
- 4年生 (23.3%)
- その他:

学部と学科を教えてください

- 教育・学校課程 (7.0%)、教育・心理教育課程 (1.4%)
- 人科・人科 (2.8%)、人科・臨床心理 (1.4%)、人科・心理 (4.2%)
- 文学・日本文学 (8.5%) 文学・英米文学 (4.2%) 文学・中国文学 (4.2%)
- 情報・広報 (4.2%) 情報・経情 (1.4%)
- 情報・システム (2.8%) 情報・情社 (4.2%) 情報・メディア (9.9%)
- 国際・理解 (7.0%) 国際・観光 (14.1%) 健康栄養 (11.3%) 経営 (11.3%)

出身都道府県を教えてください(海外の場合は国名)

- 北海道・青森県・秋田県・三重県・鳥取県・島根県・広島県・長崎県・大分県・沖縄県 (1.4%)
- 千葉県 (2.7%)、群馬県 (4.1%)、福島県・茨城県・長野県 (5.5%)、栃木県・東京都・静岡県 (8.2%)
- 埼玉県 (11.0%)、神奈川県 (27.4%)

・次の人に関する態度について教えてください

入れ墨(タトゥー)を入れている人

	とても そう思 う				全くそ うは思 わない
	1	2	3	4	5
知的な人が多い	1.4	0	12.3	41.1	45.2
家族にいたら、それを他人に言うのは嫌だ	23.3	31.5	16.4	13.7	15.1
その人の人権を国がもっと擁護すべきだ	15.1	19.2	34.2	17.8	13.7
社会に悪影響を与える存在だ	4.1	16.4	23.3	31.5	24.7
自分に正直な人が多い (性格が) 暗い	16.4	21.9	34.2	20.5	6.8
2.8	5.6	22.2	44.4	25.0	
話好きな人が多い	5.5	17.8	52.1	15.1	9.6
社会的モラルに反する	8.2	32.9	19.2	21.9	17.8
恋人になるのは嫌だ	31.5	24.7	13.7	19.2	11.0
社会的な立場がもっと認められるべきだ	15.1	21.9	34.2	15.1	13.7
友達になれる	19.2	27.4	30.1	12.3	11.0
仕事ができない	2.7	15.1	16.4	32.9	32.9
行動を共にすることが出来る	15.1	37.0	26.0	15.1	6.8
精神的に不健康である	5.5	19.2	24.7	24.7	26.0
社会から隔離した方が本人のためだと思う	1.4	2.7	15.1	28.8	52.1
面白い人が多い	4.1	13.7	63.0	8.2	11.0

浮気・不倫をしている人

	とても そう思 う				全くそ うは思 わない
	1	2	3	4	5
知的な人が多い	6.8	20.5	31.5	17.8	23.3
家族にいたら、それを他人に言うのは嫌だ	64.4	20.5	5.5	6.8	2.7
その人の人権を国がもっと擁護すべきだ	0	4.1	23.3	24.7	47.9
社会に悪影響を与える存在だ	23.3	34.2	20.5	13.7	8.2
自分に正直な人が多い	37.0	21.9	16.4	9.6	15.1

(性格が) 暗い	2.8	5.6	30.6	40.3	20.8
話好きな人が多い	19.2	30.1	32.9	11.0	6.8
社会的モラルに反する	39.7	41.1	11.0	5.5	2.7
恋人になるのは嫌だ	72.6	12.3	5.5	4.1	5.5
社会的な立場がもっと認められるべきだ	1.4	4.1	13.7	34.2	46.6
友達になれる	11.0	23.3	24.7	13.7	27.4
仕事ができない	5.5	4.1	32.9	28.8	28.8
行動を共にすることが出来る	6.8	23.3	21.9	27.4	20.5
精神的に不健康である	20.5	15.1	24.7	24.7	15.1
社会から隔離した方が当人のためだと思う	8.2	9.6	27.4	27.4	27.4
面白い人が多い	11.0	12.3	41.1	17.8	17.8

同性愛の人

	とても そう思 う				全くそ うは思 わない
	1	2	3	4	5
知的な人が多い	8.2	15.1	58.9	12.3	5.5
家族にいたら、それを他人に言うのは嫌だ	5.5	23.3	17.8	24.7	28.8
その人の人権を国がもっと擁護すべきだ	65.8	24.7	5.5	1.4	2.7
社会に悪影響を与える存在だ	0	4.2	6.9	19.4	69.4
自分に正直な人が多い	42.5	28.8	20.5	5.5	2.7
(性格が) 暗い	1.4	9.6	28.8	28.8	31.5
話好きな人が多い	13.9	15.3	52.8	12.5	5.6
社会的モラルに反する	1.4	1.4	12.5	29.2	55.6
恋人になるのは嫌だ	20.5	16.4	26.0	16.4	20.5
社会的な立場がもっと認められるべきだ	64.4	24.7	6.8	0	4.1
友達になれる	64.4	24.7	4.1	4.1	2.7
仕事ができない	0	2.7	17.8	15.1	64.4
行動を共にすることが出来る	45.2	39.7	5.5	4.1	5.5
精神的に不健康である	1.4	2.8	18.1	22.2	55.6
社会から隔離した方が当人のためだと思う	0	1.4	6.8	17.8	74.0
面白い人が多い	21.9	20.5	46.6	6.8	4.1

体形が太っている人

	とても そう思 う				全くそ うは思 わない
	1	2	3	4	5
知的な人が多い	0	2.7	45.2	23.3	28.8
家族にいたら、それを他人に言うのは嫌だ	8.2	12.3	11.0	23.3	45.2
その人の人権を国がもっと擁護すべきだ	12.3	17.8	30.1	17.8	21.9
社会に悪影響を与える存在だ	5.5	6.8	17.8	30.1	39.7
自分に正直な人が多い	25.0	13.9	40.3	11.1	9.7
(性格が) 暗い	5.5	24.7	28.8	16.4	24.7
話好きな人が多い	12.3	17.8	42.5	16.4	11.0
社会的モラルに反する	2.7	5.5	11.0	24.7	56.2
恋人になるのは嫌だ	26.0	23.3	19.2	24.7	6.8
社会的な立場がもっと認められるべきだ	12.3	21.9	34.2	16.4	15.1
友達になれる	41.1	43.8	8.2	4.1	2.7
仕事ができない	5.5	8.2	34.2	17.8	34.2
行動を共にすることが出来る	35.6	34.2	15.1	9.6	5.5
精神的に不健康である	11.0	15.1	34.2	12.3	27.4
社会から隔離した方が当人のためだと思う	4.1	0	11.0	24.7	60.3
面白い人が多い	13.7	26.0	45.2	9.6	5.5

・メディアについてお聞きします

あなたは1か月に平均で何冊くらいの(漫画、または小説などの)印刷された本を読みますか

冊数	0	0.4	1.0	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	5.0	7.0	10.0	50.0	100.0
割合	22.2	1.4	22.2	11.1	2.8	11.1	1.4	1.4	12.5	2.8	8.3	1.4	1.4

あなたは1ヶ月に平均で何冊くらいの漫画または小説などの電子書籍をWebなどインターネット上で購入して読みますか

冊数	0	1.0	2.0	2.5	5.0	10.0	20.0	24.0	30.0
割合	76.8	5.8	2.9	1.4	5.8	2.9	1.4	1.4	1.4

あなたは1ヶ月に平均で何話くらいの漫画または小説などをWebやアプリなどインターネット上で読みますか

話数	0	1.0	2.0	2.5	3.0	5.0	6.0	6.5	10.0	15.0
割合	49.3	5.8	2.9	1.4	1.4	5.8	2.9	1.4	2.9	1.4
話数	20.0	30.0	50.0	60.0	70.0	80.0	90.0	100.0	150.0	200.0
割合	2.9	4.3	4.3	1.4	1.4	1.4	1.4	4.3	1.4	1.4

あなたは1週間に平均で何時間くらい、テレビでドラマやバラエティーの映像を見ますか(録画やDVD、ゲーム実況なども含む)

時間	0.0	1.0	2.0	2.5	3.0	4.0	5.0	5.5	7.0	9.0	10.0	14.0
割合	5.6	7.0	5.6	1.4	8.5	7.0	7.0	1.4	5.6	1.4	12.7	4.2
時間	15.0	20.0	21.0	28.0	30.0	35.0	40.0	42.0	60.0	100.0	104.0	
割合	4.2	5.6	1.4	4.2	4.2	1.4	2.8	2.8	2.8	1.4	1.4	

あなたは1週間に平均で何時間くらい、インターネットでドラマやバラエティーの映像を見ていますか(録画やDVD、ゲーム実況なども含む)

時間	0.0	0.3	0.5	1.0	2.0	3.0	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0
割合	24.6	1.4	1.4	8.7	11.6	2.9	1.4	1.4	7.2	1.4	1.4
時間	7.0	8.0	10.0	14.0	15.0	20.0	24.0	25.0	30.0	100.0	104.0
割合	7.2	1.4	7.2	1.4	5.8	2.9	1.4	2.9	2.9	1.4	1.4

・同性愛メディアについてお聞きします

あなたは同性愛メディア(男性同士または女性同士の恋愛を描いた物語やドキュメンタリーの映画や漫画など)に触れたことがありますか

- ある(63.0%)
- ない(37.0%)

・同性愛メディアに「触れたことがある」と答えた方にお聞きします

最初に触れた(見た・聞いた)のは何歳ですか

年齢	7	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
割合	2.4	9.5	2.4	9.5	7.1	14.3	9.5	19.0	11.9	4.8	4.8	4.8

それはどの媒体でしたか

- 映像(34.8%)
- 印刷物(23.9%)
- 音声のみ(0%)
- インターネット(41.3%)
- その他:

きっかけは誰かから勧められたことですか

- 友人(23.9%)
- 兄弟・姉妹(4.3%)
- 親(0%)
- 親戚(0%)
- インターネット上の友人・知人(2.2%)
- 誰からも勧められていない(58.7%)
- その他(10.9%)

今まで触れたことのある同性愛メディアはどのようなものでしたか

- 映像①(実写のドラマや映画などの物語)(11.0%)
- 映像②(実写のドキュメンタリーやノンフィクション)(10.4%)
- 映像③(アニメーション)(9.2%)
- 音声(ドラマCDやラジオドラマ)(6.4%)
- 印刷①(漫画・オリジナル)(11.6%)
- 印刷②(漫画・2次創作)(8.7%)
- 印刷③(小説・オリジナル)(5.8%)
- 印刷④(小説・2次創作)(4.6%)
- インターネット①(静止画、漫画・オリジナル)(7.5%)
- インターネット②(静止画、漫画・2次創作)(8.1%)
- インターネット③(小説・オリジナル)(5.8%)

- インターネット④(小説・2次創作)(6.4%)
- インターネット⑤(ブログや体験記事)(3.5%)
- その他(1.2%)

以下の作品の中で読んだことや見たことのある作品を教えてください

- 純情ロマンチカ(中村春菊)(20.6%)
- 同級生(中村明日美子)(7.4%)
- ゆるゆり(なもり)(13.2%)
- やがて君になる(仲谷鳩)(4.4%)
- 抱かれたい男1位に脅されています。(桜日梯子)(7.4%)
- 囁る鳥は羽ばたかない(ヨネダコウ)(4.4%)
- 桜 Trick(夕子)(8.8%)
- citrus(サブロウタ)(2.9%)
- 当てはまるものはひとつもない(30.9%)

あなたは同性愛メディアを好む人(腐女子・百合好きなど)についてどう思いますか

		1	2	3	
話しやすさについて	話しやすい	20.5	53.4	26.0	話しにくい
親しみやすさについて	親しみやすい	21.9	47.9	30.1	親しみにくい
信頼感について	信頼感が強い	15.5	76.1	8.5	信頼感が弱い
好ましさについて	嫌悪を感じる	15.3	68.1	16.7	好ましいと感じる

最近、ニュースや雑誌などでBLや百合などの同性愛メディアについて特集が組まれることがあります、それについてどう思いますか

	1	2	3	4	5	
こうした特集について						
とても関心がある	8.2	27.4	21.9	21.9	20.5	全く関心がない
こうした特集をどう思いますか						
とても良いことだと思う	12.3	21.9	42.5	15.1	8.2	全く良いことだとは思わない

あなたは以下のネットや漫画などで使われている言葉の中で、言葉の意味を知っている言葉はありますか

- 同人誌(8.7%)
- 腐男子(6.7%)
- 百合(花の種類ではなく漫画用語)(7.7%)
- やおい(4.4%)
- 戦利品(6.6%)
- GL(6.1%)
- コミケ(9.1%)
- 二次創作(6.6%)
- 腐女子(10.3%)
- pixiv(ピクシブ)(7.4%)
- BL(10.4%)
- 801(4.0%)
- 薄い本(同人誌)(7.1%)
- 薔薇(花の種類ではなく漫画用語)(4.2%)
- JUNE(漫画名)(0.8%)

・友人や知人などについて

あなたは今まで在学していた中学校または高校で同性のみの環境(男子校や女子校など)に通っていたことはありますか

- ある(9.6%)
- ない(90.4%)

あなたの友人・知人または親戚に同性愛者の人はいますか

- いる(23.3%)
- いない(76.7%)

同性愛の友人・知人・親戚がいると答えた方にお聞きします

その人が同性愛者だと知り、あなたはどう思いましたか

		1	2	3	
話しやすさについて	話しやすい	23.5	70.6	5.9	話しにくい
親しみやすさについて	親しみやすい	23.5	64.7	11.8	親しみにくい
信頼感について	信頼感が強い	35.3	64.7	0	信頼感が弱い

好ましきについて	嫌悪を感じる	17.6	64.7	17.6	好ましいと感じる
----------	--------	------	------	------	----------

あなたはそのことを聞いてどう思いましたか

- やはりそうだと感じた(70.6%)
- 特に何も思わなかった(17.6%)
- 意外だと感じた(11.8%)

その後、あなたはその友人知人に対して実際の態度に変化がありましたか

- あった(23.5%)
- なかった(76.5%)

・同性愛の知識についてお聞きします

2016年12月現在、日本では同性婚が認められていると思いますか

- 認められている(25.0%)
- 認められていない(75.0%)

日本に同性愛者はどのくらいの割合いると思いますか

- 約1%(4.2%)
- 約3%(12.5%)
- 約5%(15.3%)
- 約7%(18.1%)
- 約11%(31.9%)
- 約15%(18.1%)

同性愛者は全員、性同一性障害という病気であると思いますか

- 病気であると思う(6.8%)
- 病気であるとは思わない(93.2%)

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。